Libro de Apolonio I

Translated by OTA Tsuyomasa

Abstract

The legend of Apollonius belongs to the type of fictive literature known as the Greek romance cultivated by the Greek-speaking peoples of the Mediterranean during the first to fourth century and which was translated into Latin and romance languages. But the original text in Greek has been lost.

A Spanish version appeared in the thirteenth century, written seemingly by an unknown cleric and in the erudite form of cuaderna vía (four-fold way), whose style has been called mester de clerecía (scholars' art) as compared with mester de juglaría (minstrels' work).

This time, a translation is made from the first strophe to the strophe 180.

アポロニオの書 I

太 田 強 正　訳

「アポロニオの書」は 1 世紀から 4 世紀にかけて流行した所謂「ギリシャ・ロマンス」が大元であるが、それがラテン語、ロマンス諸語へと訳され、スペイン語版は 12 世紀に出たようであるが誰の手になるのかは分かっていない。ギリシャ語の原本も失われている。

スペイン語版は恐らくは聖職者が書いたものであろうと言われていて、メステル・デ・クレレシーア（mester de clerecía）に属するものである。これは中世スペインの主に聖職者による教養階級の文学の流派を意味し、文字の読み書きのできない吟遊詩人（juglares）によるメステル・デ・フグラリーア（mester de juglaría）と対をなすものである。本作品はクアデルナ・ビーア（cuaderna vía）と呼ばれる 1 行 14 音節同音韻 4 行詩で書かれていて、656 連からなるテュロスの王アポロニオの奇伝叙事詩である。

今回は 1 連から 180 連までを掲載する。

訳は言葉が違うので韻を踏ませることはできなかったが各行ごとに付けた。そのため日本語として通るように原文にない接続詞などを補わなければならない箇所があった。

人名は原文通りにスペイン語読みに、地名は日本で普通に行われている表記に従った。

訳に当たっては現代スペイン語訳の他、英訳を参照した。また部分訳で

はあるが日本語訳も参考にした。

本稿は Clásicos Castalia の Libro de Apolonio Edición de Carmen Monedero に基づいている。

1　神と聖マリアの名において
もし彼らが私を導いてくださるなら、私はしてみたいと思います
新しい技巧の詩を作ることを
善良なるアポロニオと彼の徳についての

2　テュロスの生まれのアポロニオ王は
長い間冒険的な生活を送ったために
娘と正妻を失いましたが
二人を取り戻しました、彼女たちに誠実だったからです

3　私はあなたたちにまずアンティオコ王の話から始めたいと思います
彼は海港にアンティオキアを建てました
自分の名から取ってそれに名前をつけました
当時彼はたとえ死んでも、悲しくはなかったでしょう

4　というのは結婚していた妻が死んで
とても美しい一人の娘を残したからです

人々はこのような美人を知りませんでしたし
その体には取り立て言う欠陥も見当たりませんでした

5　多くの王子たちが彼女に求婚に来ました
しかし誰も彼女を得ることはできませんでした
そうこうするうちにこの様な事が起こります
それは公にするのも恥ずかしいことです

6　決してじっとしいない悪魔は
ひどい奸計めぐらせて
王に自分の娘に恋心を抱かせました
王は彼女に対する思いで気も狂わんばかりでした

7　最悪の事が起こりました
王は彼女に対する思いを遂げたのです
しかし彼女は喜んで同意したわけではありませんでした
その様な事を耐え忍ぶべきではないと思っていたからです

8　娘はこの事を非常に恥じて
死のうとして何も食べようとしませんでした
しかし彼女を育てた年老いた乳母が
彼女の罪ではないと信じさせました

9　—“娘よ、と乳母は言いました、あなたが恥じたり苦しんだとしても
あなたには罪はありません、それ以上のことはできなかったのだ

から
あなたに起こったことは運命でそうなったのです
御婦人、喜んでいいのです、それ以上のことはできなかったのだから

10　もう一つ忠告すると、あなたは私を信じなくてはいけません
あなたの父である王を中傷してはいけません
失ったものは大きいけれど、黙っていた方が良いのです
さもないと王もあなたも評判を落とすことになりますよ”

11　“ばあや、と王女は言いました、ひどい罪を犯したのだから
決して私に父と呼ばれるべきではありませんし
私も娘と呼ばれるのを心苦しく思います
どちらも正しい呼び方ではありません

12　しかし私は犯されて他の事は出来ないので
あなたの忠告に従いましょう、誠実な私のばあや
しかし私は神に見放されたと思っています
私はあなたにちゃんとした助言を受けたと思っています

13　私は悪魔が王の内で体を得たことは良く知っています
王が罪を見極める力がなくなるほどに
彼は悪い生活を送り神の怒りを買ったのです
というのは神を満足させるお務めをしていなかったのです

14　娘といるために、王は結婚させませんでした

そうすれば自分の劣情を遂げることができたのです
王はひどい奸計をめぐらすのです
汚れた獣の悪魔が彼をそそのかしたのです

15　恥をかかず、非難もされないように
難しい謎を解くように要求しました
それを解いた者には喜んで彼女を与えよう
解けない者は首を切られることになると

16　このために首をはねられた者がたくさんいました
首は城壁の門の上から吊されました
王女の悪いうわさが広まりました
多くの若い貴族には近付き難いと思われました

17　《枝の青さは根のようだ
私は母の肉で首を太くする》
この謎が何を言っているのか言い当てる者は
王の娘、皇后となる娘を手に入れるだろう

18　テュロスを支配していたアポロニオ王は
非常に価値あるこの王女の話しを聞くと
彼女に恋してしまい、結婚したくなりました
彼女に求婚する時については考えませんでした

19　彼はアンティオキアに来て王宮に入り
アンティオコ王と宮廷の面々に挨拶し

王女を正式な妻に欲しいと求めました
そして贈り物としてテュロスの町を彼女に約束しました

20　しっかりして有徳のアンティオキアの宮廷は
彼の若さに苦悩し
彼は奸計から身を守ることを知らないとうわさしました
悪い交霊術で正気を失ったのだと

21　すぐに彼は自分の考えを述べました
―全宮廷が聞いていて、いい機会でした―
王は彼に提案をしました
自分に首を差し出すか、解答を示すかです

22　アポロニオは深い教養があり
謎を解く訓練をよく受けていたので
王の過ちとその卑怯な罪を見抜きました
あたかも自分の目で確かめてように

23　彼はそこに来たことをとても後悔していました
過ちに陥ったことはよく分かっていました
しかしバカだと思われないように
謎には完全な良い答えをしました

24　アポロニオは言いました：―“王様、そのような事を要求すべきではありません
“すべての人に恥ずかしさと苦痛をもたらしますから

“こうなる事を本当に否定したくないなら
“あなたとあなたの娘の間を終わらせるべきです

25　“あなたは根っこで、あなたの娘は梢です
“あなたは娘故に、大罪を犯したが故に滅びます
“なぜなら彼女は肉の罪を受け継いでいるからです
“それはあなたと彼女の母が共通に持っているものです

26　王はこの解答に非常に不満でした
ずっと捜していたものを見つけたのでした
それは悪魔がたくらんだ狂気に彼を落とし入れました

27　動揺を隠すために
王はアポロニオが嘘を言った
自分は血の繋がりによってそうしようとしているのではないと言いましたが
皆はアポロニオが本当のことを言ったと思いました

28　王はアポロニオが首をはねられることになる
謎が解けなかったらと言いました
しかし王は彼に三十日の猶予を与えようとしました
時間が足りなくて答えられないことがないように

29　アポロニオはその町に留まることは望みませんでした
ぐずぐずすると良くないことになると思ったからでした
悲しみに打ちひしがれて船で旅をしようとしました
テュロス着くまでずっと

30　人々は自分たちの主人を見ると喜びました
皆んな彼に会いたがっていました、彼に満足していたのです
大人も子供も創造主に感謝しました
街も周りの村々全部が

31　アポロニオは自分の部屋に閉じこもりました
そこには彼の書いたものと注のついた物語がありました
彼は謎々と過去の功しを声を出して読みました
カルデア語とラテン語のものを三、四回

32　ついには他のことが分からなくなりました
アンティオコ王に答えること以外は
謎は諦めて読むのを止めました
成果の出ない苦しみの中でもがくのを止めました

33　しかしひどい失敗をして
王女を得られず、侮辱されたと思いました
起こったことを考えれば考えるほど
自分がひどく混乱していると思えました

34　こんな恥には耐えられないと彼は言いました

それより自殺するか運命を変えたいと思いました
パンと財宝をたくさん積み込ませ
海に冒険に出ました

35　わずかな人数しか連れて行きませんでした、その事を知らなかったからです
彼の召使いを除いてはこの事を知りませんでした
順風に恵まれて早い速度で航海しました
タルソに着いて、そこで船旅を終えました

36　アンティオコに話を戻しましょう
私たちはそんなに早くそこから離れるべきではありません
王はアポロニオに怒りと非情な苦悩を抱いていました
できるなら進んで殺したいほどでした

37　王は寵臣のタリアルコを呼びました
彼の見解に王は信頼を寄せていました
幼少の頃から王の家で育てられたのです
王は彼に任務を果たしに行くように頼みました

38　王は言いました―“お前にはよく知ってほしい、我が忠実な友よ
“お前に言うこの事を他の者には話せない
“私はアポロニオの天敵なのだ

“それで私の決意をお前と相談したい

39 “私がしている事を彼は見破った
“私にあんなにはっきり言う者はいなかった
“しかし村や荒地が私を守ってくれるなら
“決して私を枯れた接木とは思わないだろう

40 お前に財宝を望むだけあげよう
できるだけ早くテュロスに行きなさい
剣であろうと毒であろうと彼を殺すことができたら
今ここでお前の望む物は何でも約束する

41 タリアルコはぐずぐずしていませんでした
主君を喜ばせようと
殺せという決定を受け、金をたくさん用意し
お務めを果たすためにテュロスの王のところに行きました

42 テュロスに入ると、そこで大きな嘆きを見ました
人々は外套のボタンを掛けて悲しんでいました[1)]
涙とため息で、美しい歌などはなく
聖なる場所で祈りを捧げていました

43 すべてが混乱して、街が暗く沈んでいるのを見ました
人々は生気がなく、悲しみにくれていました
この悲しみはなぜなのか
なぜ皆元気がないのか聞いてみました

44　一人の善良な男が答えました、彼はなかなか道理をわきまえた男でした
—“友よ、旅のお方のようだが
“もしこの土地の者ならとても悲しむだろうよ
“そしてここではこんなことは見たことがないというだろうよ

45　我らに命令していた我らの主人である王は
名を、聞いたことがあるなら、アポロニオと言い
アンティオコのところに娘をもらいに行ったのだが
彼女はこれ以上誠実な男と結婚はできなかっただろうに

46　王は性悪な口実をもうけたので、彼女を獲得できませんでした
彼女なしで国に帰らなければならなかったので恥ずかしい思いをしました
恥辱と苦悩が彼を家から出て行かせたのです
どこに行ったのか判りません

47　我々は神に頼んだ通りの主人を持ちました
もしこの主人でないなら、他にこのような方は期待できません
心配でどうしたらいいのか判りません
王がいないと我々は安心できません

48　タリアルコはこの知らせに満足しました
彼は自分の仕事をちゃんと果たしたと思い
彼を遣わしたアンティオコ王のもとへ戻りました
王にこの知らせを伝え、伝言をするために

49　彼はアポロニオについては心配なさらぬようにと言いました
アポロニオは恐れを抱いて他の土地へ落ち延びたのですから
―“そのような場所に、とアンティオコは言いました、引っ込んだのではないだろう
荒地や村が私から彼を守ってくれるような場所に”

50　その上王はひどい悪法を発布しました
アポロニオを殺したり生け捕りにした者には
自分の財産からかなりの部分を与えよう
少なくとも鋳造貨幣で百キンタル[2)]になる

51　神がこのような節度のない王を呪いますように
罪の内に生き、狂気の沙汰を企んだのです
正しい事を言った男を殺そうとしました
非常に難解な謎を解いたからといって

52　悪魔がこのようにさせたのです、そういう本性ですから
というのは長引く他の多くの人の場合
わずかの日々で倍になり、陰りをもたらすからです[3)]
このような例を書物はたくさん示しています

53　わずかな悪事を隠すために
人は偽証し、何を言っているのか考えません
偽証する人に信仰は味方しません
私があなたに言っているこの事は教えがあなたに説いていることです

54　この同じ事がすべての罪について起こります
ある罪と他の罪がすべてつながっているのです
もしある罪がすぐに改められないと
他のもっとずっと大きい罪がすぐに加えられるのです

55　私たちはある聖なる隠者が
ぶどう酒を飲むという罪を犯し
それにより姦淫を犯すことになり
その後殺人に手を染めたという話を聞きました

56　アンティオコ王はひどい過ちを犯していたのですが
できればさらに悪い別の罪を犯そうとしていました
もし最初の罪に痛みを感じているなら
そのような事を命じようとはしないでしょう

57　諺にあるように
ひどい強欲は袋をやぶるものだと言われますが
その（褒美の）約束は多くの人に過ちを犯させました
彼らは進んでアポロニオを殺すか捕らえようとしたのです

58　黒い欲望にひどく掻き立てられて
知れ渡った報酬である財宝を得るため
多くの人が強欲を隠さず抱いていました
どうにかしてアポロニオを殺すために

59　忠実な友だと思っていた者たちが

不倶戴天の敵になりました
神がこの世を混乱させますように、わずかな金のために
人々は不実になるのです

60　アンティオコ王は頑丈な板で船を作ることを命じました
アポロニオを探して殺すために
それらの船に兵士と武器と食料を積み込むことを命じました
しかし神は事を別に運びました

61　決して驕りを我慢しようとしない神は
これを妨げ、事は成りませんでした
彼を見つけることも傷つけることもできなかったのです
このように計らった神を私たちは誉め称えるべきでしょう

62　アンティオコ王のことは置いておいて
アポロニオに話を戻したいと思います
私たちはタルソに彼を置いておきます、このことはよく覚えておくべきです

63　アポロニオがタルソに着くと、気持が傷ついていたので
すぐに岸のあたりに錨を降ろさせました
そこが適当な場所で、素晴ら岸辺なのが分りました
苦しみと辛い航海から休息を取るためには

64　食料を買い、焚き火を焚き
食べ物とフライパンと鍋を用意し
色々な方法で料理することを命じました
テーブルクロスと皿は非常に貴重なものでした

65　食料で欲しい物がある人たちには
人々が喜んで与えてくれました、売ろうとはしませんでした
土地の人全員が彼らをとても喜んでいたのです
食料が不足していたのでそうしてもらうことが必要でした

66　痩せて、食べ物が乏しい土地でした
不足は大変なもので、貧しい人々でした
子供はたやすく1ディナラダ[4)]で食べることができますが
農夫は畑から帰って来ると3ディナラダ食べます

67　アポロニオは良く理をわきまえた男だったので
皆彼に会いに来て、彼に良くしていました
誰も不満を抱いて帰る者はいませんでした

68　一人の善人がやって来ました、白髪のエラニコです
彼は高貴な生まれで、年老いていました
アポロニオを見つめ、彼の手を取って
平らな野原に連れて行きました

69　その善人は彼のことを残念に思っている
御触れのことは知っていたし、よく分っていると言った

—“ああ、アポロニオ王、非常に尊敬すべきお方
“もしあなたが自分の不幸を知っていたら、悲しむに違いありません

70 “あなたはアンティオコ王から疎んじられてます
“町にも村にも泊めてくれる所はないでしょう
“あなたを殺せたら、たっぷり礼がもらえるでしょう
“もしあなたが逃れることができれば、とても幸運です”

71 アポロニオは怒ったように答えました
—“善人よ、もし神を満足させるなら、私に言ってください
“どんな理由でアンティオコは私を探しているのですか
“あるいは私を殺す者にどんな褒美を与えたのですか”

72 —“アンティオコはあなたを殺すか捕らえようとしています
“それは自分が今あるところのものにあなたがなろうとしたからです
“100キンタル[5)]を約束しています、それは彼の財産から
“あなたの首を差し出す人に与えられるでしょう”

73 そこでアポロニオは言いました：—それは私のせいではありません
“なぜなら私は死ななければならないようなことは何もしていませんから
“しかし我が主である神は私たちに勇気を与えてくれるでしょう
“神は悩める者たちの道であり港です

74　“しかしその事を私に教えてくれたので
“あなたに恩義を感じ感謝をしなければならない
“その上私の財産から同じ額の金を持って行ってほしい
“アンティオコが私を傷付けるのに払うと同じ額の金を

75　“その金はあなたが安全に罪なくもらうことができます
“あなたは私に苦悩でなく喜びを探してくれたのですから
“あなたの権利を失わないでください、私を責めることになりかねませんよ
“それでは私が重大な過ちを犯すことになるかもしれません”

76　その善人は彼に素晴らし返事を返しました
―“ありがとうございます、王様、そしてあなたの申し出に感謝します
“友情を売り渡すことは私たちの習わしではありませんから
“善意をお金にする人は自分自身をひどくおとしめます”

77　神はその名を尊ぶすべてのキリスト教徒に
このような人に必要な時にはお与えになります
このような人について聞いた男も女も
生涯常に彼を褒めたたえるべきです

78　エラニコは責められるのを恐れて
というのはアポロニオと腹を割って話したので
愛着を残して彼に別れを告げました
彼はマントにボタンをかけながら自分の町に帰りました

79　アポロニオはこの出来事のことを考えていました
事が悪い方に向かっているのが分かりました
人々は多くの人が彼を探しているを知っていました
自分は眠っている時か、夜なべをしている時に殺されるだろうと思っていました

80　この事を悲しげに考えていると
アポロニオは裕福で立派な身なりの町人に出会いました
その男はエストランヒロといい、正直者でした
アポロニオは相談があると言って彼を離れたところに連れ出しました

81　—“私はあなたと、とアポロニオは言ました、話したい
“私の事をあなたに話し、あなたの助言にしたがいたい
“アンティオコの手のものが私を殺そうとしています
“もし見つかれば捕らえられ連れて行かれるでしょう

82　“もしあなたが豊かさ故に私をかくまってくれるなら
“ここにしばらく滞在したいのですが
“もしそのような助言をしてもらえるのなら
“私はタルソ全域に大きな褒美を与えましょう”

83　エストランヒロは彼のことをよく知ったので、答えました

—“王様、と彼は言いました、この町はあなたを養えないでしょう
“あなたの高貴さは立派なもので、立派な場所に値します
“この町は非常に窮乏していて、あなたを養えないでしょう

84　“しかしあなたについて一つ知りたいことがあります
“アンティオコ王となぜいさかいを起したのですか
“もし彼の怒りがあなたにまだあるのなら、誰があなたを守ってくれるのか分かりません
創造主か摂理を除いては”

85　アポロニオは聞かれた事に答えました
—“それは彼がとても愛している己が娘を私が求めたからです
“そして彼が私たちを妨げていた謎を私が解いたからです
“それ故私を迫害するのです、その事が彼を侮辱したわけですから

86　“もう一つの事にお答えしましょう
“あなたはこの町は私を養えないだろうと言いましたが
“私は持って来させた小麦をあなたに差し上げましょう
“数えると十万モヨ[6]あります、計らせてみてください

87　“それをあなたに売りましょう、しかし安い値で
“私がそれを買ったテュロスにおけるように
“その上、お金が集まったらすべて（お返しします）
“町の城壁のために[7]使って欲しいのです”

88　エストランヒロは喜び、自分が守られていると思いました
地に跪いてアポロニオの手に接吻して
言いました—“ああ、アポロニオ王、あなたは良い時に来られました
“こんなひどい苦しみの中にある私たちを救ってくたのですから

89　“王様、私はあなたに与します、私はあなたが私たちといることを望みます
“あなたといて、あなたを迎えたいのです
“あなたがどんな取り決めを望もうと、私たちはその通りにしましょう
“もし必要なら私たちはあなたと共に死にましょう”

90　エストランヒロは事をもっと確実にし
アポロニオに風変わりな楽しみを提供するために
町に入り布告を出すことを命じました
必要なので議会にくるようにと

91　間もなく議会が開催され
エストランヒロが命令を告げることになっていました
—“同意して、と皆言いました、承諾されるように
“このような崇拝される人物は生きているべきです”

92　アポロニオは彼らに言っていた事を果しました
飢えで死にそうなたくさんの人々を守りました
彼はかつてないほど誰よりも町に役立ちました

このような事をした悪党はいませんでした

93　天の王は大きな摂理をお持ちです
苦しむ者に常に約束を果してきました
彼のすべての熱意は苦しむ彼らを助けることにあります
私たちは彼の約束を固く信じるべきです

94　神は人間を恐れさせ、苦しみを与えます
人間の罪を見ず、彼らを助けに来て
上手に助言を与えることができます
そして自在に人間を操ります

95　アポロニオ王にはかなりの財産があり
気に入った土地はすべて持っていて
気の向く所に居を構えていました
彼のお褒めに与らない人は自分は不幸だと思っていました

96　人々は彼に非常な名誉を与えようとして
彼の名で像を建てさせ
大理石に銘を書かせました
ここで為したアポロニオの善行についての

97　その像を市場の真ん中に建てました
よくそびえるように高い柱の上に
そして世が過ぎ去り終わるまで
アポロニオの功績が忘れられないように

98　アポロニオは長い間タルソに住居を構えていました
土地の人々は彼に明るく振る舞い、彼に満足していました
滞在していた家の主人が彼に勧めました
冬を過ごすのにペンタポリスに行くようにと

99　—“王様、とエストランヒロが言いました、もしあなたが私を信じるつもりなら
“あなたに良い助言をしてあげましょう、それに従うつもりがあるのならですけど
“あなたは冬ペンタポリスへ行くか滞在するかしなさい
“（そうすれば）あなたはとても喜んでもらえると知りなさい

100　“（そうしなければ）うわさは地に広まるでしょう
“私たちはアンティオコ王に告発されことになります
“彼はその悪い過ちで私たちに軍を差し向けるでしょう
“包囲されれば私たちはとても苦しい立場に置かれるでことでしょう

101　“私たちはあなたの知っている通り食べ物に困っています
“包囲された時の用意ができていません
“もし私たちを打ち負かせば、彼らは怒りで
“私たちは皆無慈悲に痛めつけられるでしょう

102　“しかしあなたが逃げたと知ったら
“この事はすぐに広まり
“アンティオコはすぐ軍を解くでしょう

“あなたはタルソに戻りなさい、そうすれば安全に暮らせるでしょう”
―“私は満足です、とアポロニオは言いました、あなたは用意周到に話してくれました”[8)]

103　人々は船にぶどう酒と干し肉を積み込みました
そしてパンと小麦も
また海をよく知っている良い水夫たちも
彼らは急に変わる風のことも知っているのです

104　アポロニオ王がタルソから出発しようと
船に乗り、沖に出たようとしたところ
人々は彼から離れようとしませんでした
波が彼らを引き離すまで

105　皆別れを惜しんで彼と共に泣き
すぐ帰って来て欲しいと頼みました
すべての人にとって出発はつらく思えました
このような愛に私は満足しています、こんなに優しく、完璧な愛に

106　船はすぐに出発しました
順風を受けて船は軽快に走りました

タルソの人々は目を離すことができませんでした
彼らが遠くに去るまで

107　忠実さも憐れみも持ったことのない海は
急に表情を変え、瞬く間に荒れ狂い
タールよりも黒い、ひどい目にあわせます
アポロニオ王はその憂き目にあいました

108　二時間もたつかたたないうちに
風が吹き荒れ、海はしけになり
砂が天まで巻き上がりました
狼狽しない水夫はいませんでした

109　錨も固定できず、役に立ちませんでした
舵手たちも舵がとれませんでした
船が持ち上がり、転覆しそうになりました
水夫たち自身もどうしたら良いか分からない程でした

110　嵐と悪天候が彼らを苦しめました
水夫たちは誰の指示に従ったら良いの分からなくなり、舵がまったくきかなくなりました
中央のマストは皆役に立たなくなりました
魂の主(しゅ)が私たちをこの苦しみから守ってくれますように！

111　神が望んだように、ことはそのように運びました
船は皆沈んだのです

だれも逃げることはできませんでした
神が助けることを望んだ王ただ一人を除いては

112　幸運にも神は彼を助けようとしました
小さな板にしがみついたのです
みすぼらしい服と履物で
ペンタポリスの地にたどり着きました

113　海が彼を岸にうちあげた時には
善人はまったく気を失っていました
二日間意識が戻りませんでした
というのはひどい目にあって恐ろしい恐怖を味わったからでした

114　栄光の王が望んで彼は意識を取り戻しました
彼はたった一人で、みすぼらしいなりをしていました
何が起こったのか、どのように起こったのかを思い出しました
―“何ということだ、と彼は言いました、私は悪い運のもとに生まれて来たのだ！

115　“私はとても良い王国を残し、そこで正直に生きていた
“私は競争と名のある結婚を求めた
“私は敵を作り、それで辱めを受けた
“そして殺すと脅され、妻なしで戻った

116　“そういうすべての被害にもかかわらず、もしわたしが平静でいたら

“失望で、正気を失ってテュロスの地を離れなかったら
“神がわたしに与えようとするものを、不幸も幸福も覚悟で
“そうしたなら
“誰もわたしに起こった事で嘆くことはなかったでしょう

117 “私がテュロスを出て、遠く離れた後で
“私の運がこの地へ私を運んできたのです
“もしその運に兄弟がいて私が一緒に育ったなら
“私はその中で一番愛される者ではあり得ないでしょう

118 “悪魔が私を動かして私を去らせたのです
“私を愚弄し悪事を働くために
“さらに愚弄するために、海に私に投げ入れました
“私を滅ぼすために多くの策を弄しました

119 “悪魔は海の波と取り決めを結びました
“すべての風が悪魔を助けにやって来ました
“アンティオコが風を送るように頼んだように思えました
風は私のことでアンティオコの好意を得ようとしているようでした

120 “人は決して海を信じるべきではありません
“海は誠実ではなく、悪ふざけができます
“受け入れる時はいい顔をすることを知っていますが
“すぐに人を危険に落とし入れます”

121　このように彼は自分の運命を呪っていました
涙を流し、自分の苦しみを嘆いていると
釣りをしている善人に会いました
小舟の側で網を繕いながら

122　アポロニオ王は非常に貧しい身なりだったのでとても恥ずかしかったのですが
漁師のところへ行き、彼に会いました
―“神があなたを救ってくださるように！”とすかさず彼に言いました
漁師は彼に愛想よく答えました

123　―“友よ、と王は言いました、見ての通り
“私は貧しく惨めで、何の財産も持っていません
“どうか神があなたを祝福してくださいましたように、あなたが喜んで
“私の苦しみを聞いて、それを知ろうとするなら

124　“この通り、私は貧しく、裸で、苦しんでいますが
“私は立派な、富んだ、豊かな王国の王です
“テュロスの町の王だったのです、そこでは私はとても愛されていました
“人々は私を知れ渡った名でアポロニオと呼んでいました

125　“私は私の恵まれた、立派な王国で生きていました
“苦労を知らず、楽に生きていました

“私自身をダメな、つまらない人間だと思っていました
“多くの土地に行ったことがなかったので

126 “私は結婚しようとアンティオキアに行きました
“婦人を得ることができず、戻らなければなりませんでした
“もしそのことで故郷に落ち着いていたら
“海は私をこんなに愚弄しなかったでしょう

127 “私は身内から離れ、非常に馬鹿なことをしました
“暗い夜に船に乗り込みました
“私たちは順風を得、幸運が私たちを導いてくれました
“私たちは心地よく安全な地、タルソに着きました

128 “私たちは慈悲深い良いひと人々に出会いました
“彼らは私たちに非常に謙遜でした
“そこから私たちが出発する時に事実
皆心から悲しんでくれました

129 “海に出た時は良い天気でした
“沖に進むとすぐに、海は荒れ模様になりました
“携帯していたものすべてを海に捨て
“見ての通りみすぼらしくなって、かろうじて助かりました

130 “私と一緒に落ち延びた臣下たち
“持っていたお金、非常に大事な宝物
“儀仗馬とロバ、非常に貴重な馬

“それらすべてを私の不徳のために失いました

131　“天の神はこの事において私はウソをついていないことを知っています
“しかし人は大きな悲しみでは死にません
“―もし、しかし、私が彼らと共に横たわるなら、私は満足でしょう
“死の日がきた時に

132　“しかし神が私をこのようなことに引き込もうとし
“心ならずも施しを求める状態にしようとしたのですから
“私はあなたにお願いがあります
“私が生きていくことができるような何か助言をください”

133　王はこう言うと口を閉じ、漁師が話しました
彼は人間として王のことで非常な痛みを感じたと答えました
―“王様、とその善人は言いました、この事は分かりました
“あなたはこれ以上ないような苦悩のなかにあります

134　“この世の様はいつもこのようでした
“日々変わり、決して落ち着いたことはありません
“与えたり取り去ったりするのがこの世の常です
“衣服を剝がれた者に着せたり、着ている者から剝ぎ取ったり

135　“運を試そうとした者たちは
“時々はしくじり、時々はうまく行きました

“どんなに多くの事に遭遇しても
“自分たちに何が起ころうとも、それに耐えなければなりません

136 “決して人は冒険とは何なのか知らないでしょう
“もし損失や多くの苦難に遭わないとしても
“苦楽を味わってこそ
後に達人になり、聖書を信じるようになるのです

137 “あなたを貧しくする力を持った方は
“望むならあなたを貧しさから救い出すことができます
“王様、運命があなたを見放そうとはしないでしょう
“わずかな時間であなたは財産をすべて取り戻せますよ

138 “しかしお願いですから今日は私の客でいてください
“持っている物は喜んであげましょう
“私は貧弱でとても薄い服一枚しか持っていません
“私はそれをあなたと分かち合いましょう、その事で私が満足していると思ってください”

139 漁師は直ちに剣で自分の服を引き裂きました
半分を王に与え、彼を自分の住まいに連れて行きました
夕食にすべてを出し、何も隠しませんでした
今までにない良い夕食でした

140 翌日の朝起きると
王はその善人に泊めてくれたことを非常に感謝し

約束しました、もしいつか前の地位を取り戻すことがあったら
―“私が受けた恩義は二倍になって報いられるだろうと

141　“ご主人あなたは私に大きな情けをかけてくれました
“しかしまだ神様とあなたの善良さにおすがりしたことがあります
“町へ行く道を私に教えてほしいのです”
その善人は喜んで答えました

142　その漁師は彼に言いました―“王様、あなたがいらっしゃったことは良いことです
“何人かの良い人があなたに服をくれるでしょう
もしあなたが必要とするこの助けを受けないなら
私が持っている物を遠慮しないでください”

143　その祝福された主人は王を街道に送り出し、
彼に道を示しました、非常に近くにあっからです
最初に見つけた門の所に王を連れて行きました
王は恥ずかしげに外の街道の所に立っていました

144　まだ昼食の時間には間がありました
若者たちは遊ぶために外に出て
すぐにボール競技を始めました

当時はその競技をよくしたのです

145　アポロニオは貧しい身なりながら加わりました
彼らとともに競技に、マントのボタンを掛けて
首尾よくうまくプレーしました
まるで小さい頃からそこで育ったように

146　棒でボールを打つときには、まっすぐ飛ばしました
受ける時にはボールは手からこぼれませんでした
アポロニオはその競技において巧みで、軽快でした
誰でも彼が平民ではなかったと分かるでしょう

147　器用な人であるアルチトラストレス王は
お供の者たちと競技をするために出かけてきました
皆自分の棒と竿を持っていました
それらは一様に良くできていて、真っすぐで珍しいものでした

148　王は皆各々がどうプレイするか
ボールをどう打つのか、どう受けるのか気にかけていました
王は多くの人の中に見ました
あの身なりの貧しい男がまったく優位なのを

149　アルチトラストレス王は彼のプレーの仕方にとても満足しました
なぜならすべての事を上手くこなしていたからです
王には彼は十分能力のある善人に見え
彼とプレーしたいと強く思いました

150　王は他の者たちに休むようにそしてすべての人に静かにするように命じ
さらに二人にボール（競技）をさせるように命じました
テュロスの王はまったくみすぼらしい格好で
しきりに目から出る汗を拭いていました

151　アルチトラストレス王は競技にとても満足しました
すぐに彼が名のある人物だと分かり
その旅人に言いました―“友よ、あなたにお願いがあります
今日私と昼食を共にしてください、他へは行かないでください”

152　アポロニオはその頼みを受け入れたくありませんでした
恥ずかしさでいっぱいで何も言えなかったのです
皆が彼を、貧しい身なりでしたが、招待しました
というのは皆彼がどこから逃れて来たのか良く知っていたからです

153　そうこうしているうちに昼食の時間が来ました
町に王が戻るところでした
皆各々自分の家に散って行き
お互いを待とうとはしませんでした

154　アポロニオは宮廷を怒らせるのを恐れていました
服も値打ちのある衣装も持っていなかったからです
恥ずかしさで宮殿に入ろうとせず
門を離れて泣き始めました

155　王は入室するまで気に留めませんでしたが
席に着くとすぐにアポロニオがいないのに気づきました
王はお気に入りの家来を呼び
あの男はどこにいるのか尋ねました

156　家来は外に出てどうなっているのか見ました
王のところへ戻って、アポロニオは恥じているのだと告げました
というのは海で危ないめに会って、持っていたものをすべて無くしたので
服がなくて入れなかったからです

157　王はすぐに彼に上等の布でできた服を着せてやるように命じました
宮殿にあった一番良い布でできたものを
そしてまた彼を上の壇に着かせるように命じました
他の若者たちが着席しているところよりも

158　王は言いました—“友よ、あなたの好きな席を選びなさい
“あなたは自分の場所を、誰と席に着くべきかを知っています
“あなたは自分が守るべき節度を守る方です
“というのは私たちはあなたを知らないし、間違うかもしれないからです”

159　アポロニオは誰の隣りにもなりたくありませんでした
彼は王の側に席を一つ設けるように命じました[9)]
王の側から離れたくなかったのです

王は直ちに彼に食事を振舞うように命じました

160　宮廷の人々は皆大いに食べ
召使たちは各々仕事をして回りました
アポロニオは涙を堪えきれず
出された食事を食べることができませんでした

161　王はその事に気付き、彼に話し始めました
—“友よ、あなたは良くありませんよ、嘆くべきではありません
“明るい顔をしようとするだけで
“神はあなたに助言を与えてくれるでしょう、時間はかかりません”

162　アルチトラストレス王は宮廷をもっと満足させるために
娘のルシアーナにそこに来るように命じました
その夫人はすぐにやって来ました、ぐずぐずせずに
父に従順でありたかったからです

163　王女は着飾って宮殿に入りました
教え込まれていたように王の手に接吻し
貴族たちとその家来衆全員に挨拶しました
この事で宮廷は明るくなり、満足しました

164　王女は他の者たちの中でその旅人に目を止めました
彼女は彼が誰なのか、どこから来たのか知りたがりました
—“よく見なさい、と王は言いました、彼は旅人です

“今日あんなに上手にプレーした者は誰もいなかった

165 “私とプレーしてくれて、私は満足している
“私は彼を知らないが、彼にとても感謝している
“私の知るところでは、彼は海難から逃れてきている
“非常な痛手を受けて、それで落ち込んでいる

166 “娘よ、もし私を大いに喜ばせたいなら
“私はいつもお前にとても感謝しなければならないのだが
“彼の事をできるだけ調べておくれ
“彼に対して私たちがどのように振舞ったら良いのか知るために

167 婦人は喜んでそうしようとし
まったく無邪気にアポロニオのところに行きました
それから親しげな言葉をかけました
善良さを愛するように教育された人のように

168 —“友よ、と彼女は言いました、あなたは随分臆病ですね
“あなたはこの人たちに合わせることができないのですね
“どうもあなたは楽しい事もにぎやかな事もお嫌いのようです
“私たちは皆その事をとても不満に思っています

169 “もしあなたに起こった事を損失と思うなら
“もしあなたが高貴の出なら、なかなか忘れられないでしょう
“あなたのすべての良さが悪い方に行ってしまったのです
“立派な人は失ったものをあまり思い出さないものです

170　“皆があなたはよく教育が行き届いた人だと言っています
“私には王があなたにとても満足しているのが分かります
“あなたが見せた巧みな技が
“こんな大きな悲しみを抱えていてはすべて台なしです

171　“あなたはこのような大きな苦しみの中にいますが
“私のためにこの親切をしてもらいたいのです
“わたしの王様にあなたの名前を言って欲しいのです
“あなたの出自が分かれば私たちはとても嬉しいのですが

172　アポロニオはぐずぐずせずに答えました
彼は言いました―“親愛なる友よ、あなたは私に大きな苦痛を求めています
“持っていた名前は海で亡くしました
“私の家柄はテュロスで教えてもらえるでしょう”

173　婦人は食い下がりましたました、このままにはしておきませんでした
彼女は言いました―“神があなたを家に帰してくださいますように
“あなたが呼ばれていた名前を私に言ってください
“そうすれば私たちはあなたに対してどう振舞えばいいのか分かるでしょう”

174　アポロニオはため息をついて話し始めました
自分が経験してきたすべての不運と

自分の名前、故郷それから自分の王国が何であったかを彼女に話しました
婦人は良く聞き、彼にとても感謝しました

175　彼が語り終えると
王はさらに上機嫌になり、婦人は満足しました
アポロニオは涙をこらえようとしましたがムダでした
悲しみと起こった出来事が蘇ってきたのです

176　すると王は言いました—“娘よ、お願いだから
“アポロニオが泣いても、驚いてはいけない
“このような苦しみを持った男をお前は理解できない
“しかしお前が私を愛しているなら、彼のことを考えてあげなさい

177　“お前は彼を泣かせ、悲しませている
“どうしたら彼を快活にし、満足させられるか考えなさい
“彼に何かしてあげなさい、立派な男なのだから
“いいか、何も恐れてはいけない、都合の良いようにしてあげなさい”

178　婦人は準備し、彼に場所をしつらえました
ビウエラ[10]を自然な調子に整え
マントを脱いで、長いドレスを着て
祝ぎ歌を奏で始めました、誰もそのような光景を見たことがありませんでした

179　彼女は美しい音で美しいバラードを奏でました
時々意図的に声を止めました
彼女はビウエラに素晴らしい音を奏でさせました
それは口から出た言葉のようでした

180　身分の高い者も低い者も皆彼女のことを話していました
婦人とビウエラは非常に良く調和していたので
見た人は皆素晴らしいと思いました
彼女はもっとずっと価値のある演奏もしました

注

1）悲しみや怒りを表すために外套のボタンを掛ける習慣があった
2）キンタルは重さの単位
3）この２行意味不明
4）貨幣の単位
5）ここでは貨幣を指すが、もとは重さの単位
6）穀物などの容量単位で 258 リットル
7）アンティオコ王の復讐を恐れて
8）この５行目は後に付け加えられたようである
9）別解釈あり
10）古い弦楽器

参考図書・辞書

Libro de Apolonio　Edición de Manuel Alvar　Editorial Castalia　1976
Libro de Apolonio　Odres Nuevos　Editorial Castalia 1969
Libro de Apolonio　Edición de Dolores Corbella　Cátedra　Letras Hispánicas 2011
アレクサンドロスの書・アポロニオの書　橋本一郎　大学書林　1991
Diccionario Medieval Español　Martín Alonso Universidad Pontificia de Salamanca 1986
Diccionario de Castellano Antiguo　Manuel Gutiérrez Tuñón　Editorial Alfosípolis 2002

Tentative Dictionary of Medieval Spanish　Lloyd A. Kasten and Florian J. Cody The Hispanic Seminary of Medieval Studies New York 2001

Diccionario de la Leengua Española　Real Academia Española　Espasa 2001

スペイン語大辞典　白水社　2015